

第 46 号

医療法人財団 中山会

八王子消化器病院

消化器病専門医療機関・東京女子医大関連病院

日本医療機能評価機構認定病院

〒192-0903 東京都八王子市万町 177-3

TEL : 042-626-5111

www.八王子消化器病院.com

制作 (株) 教育広報社

八王子消化器病院ニュース

おおり

HACHIOJI DIGESTIVE DISEASE HOSPITAL NEWS



考えは言葉となり

八王子消化器病院 病院長 原田 信比古

今年桜の開花が例年より早かったものの気温が左程上がらず、花の期間が長続きした上、散る花びらと競うかのように小雪が舞うという珍しい光景が見られました。4月初旬は、新入学、新社会人を祝うに相応しく、まさに春本番となりました。この春、当院では21名の新人職員を迎え、華やかな雰囲気とともにやや緊張感に包まれた平成27年度をスタートいたしました。

そのような中、先ごろ、「置かれた場所で咲きなさい」の著者である渡辺和子さんの若い頃の経験を記した文章を目にしました。彼女が修道女としてボストンに渡られた時のことです。修道院の食堂で百数十名分のテーブルセッティングをしていた時、先輩のシスターから突然「貴女はいま何を考えていますか?」と質問され、とっさに「何も考えていません」と答えたそうです。するとそのシスターは「何故、その席につく人の「幸せ」を祈りながら並べないのですか?」ただ漫然とナイフとフォークを並べるのであれば、貴女は時間を無駄にしています。」と言われたそうです。渡辺さんはそれまで、「いかに効率的に仕事を進めるか」ということは教えられてきましたが、「仕事に愛を込める」ということはその時に、初め

て教えられたと述懐しています。見た目には同じように整然と並ぶテーブルセッティングにも、「目に見えない大切なものを込められるか、込められないか」によつて世の中の見え方は大きく変わるということを学んだそうです。その時以来、渡辺さんにとつて、つまらない仕事はなくなり、同じ時間と仕事の量であっても、その質が一変したと記されていきました。

私は、この話を聞いて「鉄の女」として知られるイギリスの初代女性首相マーガレット・サッチャー(1925~2013)の言葉を思い出しました。

考えは言葉となり、
言葉は行動となり、
行動は習慣となり、
習慣は人格を作り、
人格は運命を決定する。

英文を直訳すると

あなたの考えに注意していなさい、
何故ならそれは言葉となるから。
あなたの言葉に注意していなさい、
何故ならそれは行動となるから。

あなたの行動に注意していなさい、
何故ならそれは習慣となるから。
あなたの習慣に注意していなさい、
何故ならそれは人格となるから。
あなたの人格に注意していなさい、
何故ならそれは運命となるから。

と彼女は述べています。これは国民一人ひとりの考えが、やがて言葉となりそして、行動となり、ひいては国家の運命を決定づけるという意味で民主主義国家の原点として語られたものですが、私たち個人にとつても深い意味があるように思います。

テーブルセッティングの話も、サッチャー元首相の言葉も、すべては目に見えない「思い」や「考え」に始まり、それらが非常に重要な意味を持つという点で共通しています。私たちの身の回りには意義を見いだせない、雑用とも思える作業が山ほどありますが、ちよつと「考え」を変えれば世の中の見え方が大きく変わるといふことがあります。目に見えるところを追い求めれば「効率」が重要ですが、それを受ける相手のことを思いながら仕事をすればその「質」が変わり、それはやがて言葉や行動となつて世界が変わるのかもしれない。

日進月歩で進歩する医療の世界の中で、高いレベルの技術や知識、そして安全と効率を追求することは勿論ですが、その背後に目に見えない祈りにも似た患者様に対する思いがあるかないかによつて、医療の「質」は大きく変わると思います。このような心の佇まいをもつて、これからも消化器疾患の専門病院として診療にあたりたいと考えています。

新年度を迎えて

～ 新人教育体制の紹介 ～

看護部 岡田 正文

看護師、准看護師、看護助手からなる当看護部は、全職員の半数にあたる約 100 名を擁する院内で最も大きな部署で、その大半を占める看護師は、現在 79 名が在籍しております。昨今では当院に限らず全国的に看護師不足が深刻化し、社会問題にもなっていることは皆様も新聞報道等でご存知のことと思います。

厚生労働省の「第 7 次看護職員需給見通しに関する検討会報告書」では、2015 年の看護職員需要見通しは、500 千人に対し、供給見通しは、486 千人であり、14,900 人が不足しているといわれております。同省および関係諸団体はこの報告を重く受け止め、看護師の定着促進を始めとして養成促進や再就職支援に亘る確保対策について一層の推進を図っていると伺います。

当院においても、数年来に亘り看護師確保対策に取り組んで参りました。その一環として 5 年前から奨学金制度による看護学生の養成を行い、本年度は、その第 1 期生として 7 名の新人看護師が誕生しました。看護師国家試験合格発表日の 3 月 25 日は、各人からの「桜咲く」の

一報が届く度に喜ばしく思う反面、指導者としての責任をひしひしと感じました。なぜならば、看護師養成施設で修得する看護知識・技術は実際の臨床現場で必要とされる、それとは必ずしも同じではなく、そのギャップが新人看護師離職の一因であるとい前から指摘されており、全国の病院で人材育成・定着における大きな課題となっていたからです。そのような状況の中、2010 年に厚生労働省から各医療機関に対する新人看護職員研修が努力義務化されました。また、2013 年には「新人看護職員研修ガイドライン」が策定され、その中で研修に関する基本方針や研修の成果を上げるために必要な指導者の育成に関する考え方が示されました。当院においても新人看護師を迎えるにあたり、同ガイドラインを参考にして準備を進めて参りました。今回は、その教育体制および方法についてご紹介をさせていただきます。

当院では、従来から新人看護師（プリセプティ）1 人に対し、特定の先輩看護師（プリセプター）1 人が一定期間に亘りマンツーマンで実技指導を行う方式（プ



リセプター制度)を採用していました。この方式では、新人自らが自分のペースに合わせて主体的に学習できること、先輩が看護師として必要な専門技術や患者様との関係の築き方等を広範囲に亘り直接にお手本を示すことができること等の多くの利点があります。一方、指導内容が先輩看護師個人の力量に左右されることが、日常業務に加えて新人教育に関わらねばならず指導者自身が疲弊してしまうこと、更に新人が 1 人で患者様を受け持つ、責任を持つ看護を提供するよう指導を受けるため精神的負担が大きいこと等の課題も抱えていました。

看護部教育委員会はこれらを踏まえた上で、多くの新人看護師を迎える本年度を新たな教育方法を導入する大きな転換期であると考え、PNS (パートナーシップ・ナーシング・システム) という看護提供方式を参考にした新人教育方法を採用しました。この方式では、新人看護師 1 人に対し日々異なる先輩看護師 1 人が指導を行い、2 人 1 組で受け持ち患者様の看護にあたります。看護教育を現場で行なうため、新人にとってはパートナーである先輩が側にいることから質問に対してすぐに答えてもらえたり、必要に応じて手技を交代してもらえたりする等、安心して業務に臨むことができるメリットがあります。また、先輩にとっても一緒に行動しているため新人の動きを把握でき、安心して指導できる等のメリットがあります。今後は、これらのメリットを活かし、看護師間のパートナーシップを醸成することを通して、専門職としての知識・技術はもとより倫理観や根拠に基づいた看護が実践できる看護師を養成して参ります。

以上、当看護部の新人教育体制につきまして、ご紹介をさせていただきますが、本号が皆様のお手元に届く頃には、看護部が一丸となって新人教育と日常業務に奮闘していることと思います。今後も「患者様のための医療」の理念の下に安全・安心な専門看護を提供して参りますので、ご意見・ご要望がございましたらお聞かせください。

我が家は老々介護

八王子市横川町在住

多田 寿美江さん



46

お正月を過ぎてから、今年92歳になる父が、ひどい下痢と嘔吐で脱水状態に陥り、かかり付けの八王子消化器病院に緊急入院をいたしました。

いつもお世話になっている林先生をはじめ久野事務長、医療スタッフの皆様のおかげで1週間もしたら回復し、大事に至らず無事に退院することが出来て安堵したところです。

八王子消化器病院とは、母が昭和54年に市外の病院で胃がんの手術を受けた後、経過が悪く困っていたところ、昭和58年に子安町に現病院の前身である中山記念胃腸科病院が開院され、こちらに転院し、以来30余年のお付き合いとなります。

母は当時、中山恒明先生の診察を受け、「100歳まで生かしてあげるよ」との励ましの言葉を先生からいただき、米寿を迎える今日まで、当院のお世話になっております。

「生老病死」は人として生まれ、誰もが通る道、とは言え病気になるると本当に心細いものです。

胃がんの手術後、食事もできなかった母にとって、医師の励ましの言葉でどれほど勇気づけられたことかと心より感謝をしています。

*日本は世界一の長寿国

八王子市では65歳以上の人口は23.5%を超え、100歳を超えた方は200人になり、超高齢社会となりました。

我が家も夫はそろそろ後期高齢者の予備軍ですから、まさしく老々介護といったところ。

八王子市が行った65歳以上の「高齢者意識調査」によると健康寿命が長くなるよう日頃から心がけていることは、

- ・できるだけ体を動かす ……81.8%
- ・栄養のバランスに気をつける ……8%

- ・睡眠を十分とる ……63.7%
- ・規則正しい生活をする ……58.2%
- ・定期的に医師の診察を受ける ……58%
- ・できるだけ頭をつかう ……54.7%
- ・そして自分が最期を迎えたい場所 ……53.8%
- ・自宅 ……38.7%
- ・病院・ホスピス ……27.5%
- ・老人・介護保健施設 ……7.2%

平成11年から介護保険制度が実施されたとはいえ、誰もが老後は他人に迷惑をかけたくくない、自立して生きることを願っているものです。

- 調査の結果は、
- ・在宅にて往診治療が受けられる環境づくりを望む
- ・介護と医療のセットで取り組む体制を充実して欲しい
- ・願う声が多いようでした。

*介護は60点満点

3年前まで圧迫骨折により自力でトイレもお風呂にも入れず、車いす生活だった要介護3の母が、医療、介護、家族の協力と何よりも自身の負けない心によつて、今では杖を忘れて歩き、食事の支度をする父に「お父さんの味は料亭の味だね」と感謝して食事をとったり、スー

パーに連れて行くと自分で欲しいものをカゴに入れ買物を楽しんでいきます。仏法用語に「変毒為薬」「病おこりて、道心おこる」とありますが、何がきっかけで変わるかわかりません。決して人生はマイナスばかりでは無い事を母は証明してくれています。体が不自由になり、記憶違い、物忘れ、ちよつとしたことに苛立ってしまう、そんな老いていく姿をさみしく思っていました。たゞ身体的機能や精神的機能がおとろえ、周りの事が分からなくなつても、最後まで心豊かな人生を送ることが出来れば最高であると思えます。

や創作華道にも挑戦、以前からの市民相談まがいの御節介おぼさんをしています。

両親の介護経験は、これから私が通る道でもあります。

人生の終末期は「心の財」こそが大切であると、父と母の姿に学び、今はこの歳で親孝行でできることが最高の幸せです。そして、両親を見守つてアドバイスして下さる医師をはじめとした病院の皆様から感謝申し上げます。

←日本画「牡丹」平成25年作



薬剤科のご紹介

薬剤科 薬剤師 植本 史生

現在、当科では責任担当医師の小池副院長の下、薬剤師 4 名と院内物流業務を担当する外部業者 1 名で薬剤業務を行っています。

薬剤業務は、①医薬品の供給、在庫管理等

②調剤 ③服薬指導 ④D I (医薬品情報提供)

⑤および ⑥各種委員会への参加に大別されます。薬剤師はこれらの業務を通して医薬品に関する情報の提供や安全使用等に深く関わっています。

以下、それぞれの業務について具体的に話を進めさせていただきます。

①**医薬品の供給、在庫管理等**…本業務の実施に際し、当院では院内物流業務を担当する外部業者と協働して、医薬品の購入計画の立案、在庫管理・品質管理および院内各部署への供給業務を行っています。これにより、診断や治療に必要な医薬品が迅速かつ安定的に確保されます。

②**調剤**…医師の処方箋に基づき、患者様毎に処方薬を調剤します。院外処方箋が広く普及した今日では、ここでの対象は一部の例外的外来患者様を除き、入院患者様が中心となります。一般的な内服薬の調剤業務の他、当院にとって欠かせない抗がん剤治療における抗がん剤の調製、無菌製剤処理は重要な位置を占めています。

③**服薬指導**…院内で処方された医薬品は勿論のこと、入院患者様が他院で処方され持参さ

れた薬の確認や薬剤使用歴、アレルギー歴、副作用歴のチェックをもとに医師と協働して処方設計を行います。そして処方された薬の服用方法、服用に際しての細かい注意点等を患者様に説明をします。患者様と薬剤師が接する場面は入院時、検査・手術前後そして退院時が中心となります。時には退院後に外来受診された患者様からお声がかかることもあります。

④**D I (医薬品情報提供)**…医療現場に供給される医薬品の種類は膨大な数にのぼりますが、それらの中から患者様に最適なものを医師が選べるよう詳細な情報提供が求められます。このため、薬剤師は常に最新の情報を収集・提供できるように院内の勉強会のみならず外部の研修会にも参加します。

⑤**各種委員会参加**…院内には患者様に安全安心かつ高度な医療を受けていただくために各種委員会があり、積極的な活動を行っています。医療事故において医薬品を介したものが数多くあることから、医療現場での薬剤師の役割は重要になり専門的立場からのアドバイス等を行っています。

以上が薬剤科の主たる業務となりますが、近年これらを医療者側から患者様側への一方通行的なこととせず「我々薬剤師行動の中心に患者様の利益を据える」という考え方が急速に拡がってきました。ファーマシューティカル・ケアと言われるものです。

これは薬剤師の業務を患者様の視点から見直し、薬剤師の行動哲学を体系づけようとする考え方で、「ファーマシューティカル・ケア」とは患者様の QOL (生活の質) を改善する

という成果が目的であり、そのために責任を持つて薬に関するケアを直接患者様に提供することである」としています。

患者様の QOL を高めるためには、患者様が抱える問題や悩みを解決せねばならず、そのためには患者様とのコミュニケーションが必要不可欠となります。我々薬剤師は、患者様との信頼関係を築くために、患者様の話を傾聴し、時には深く掘り下げケアに必要な情報を収集し、服薬指導では患者様が受け容れやすい方法で情報提供できるよう、医師を始めとした他の医療スタッフと連携して薬剤業務を行うて参ります。



想うこと

万物発して清浄明潔なれば
此の芽は何の草と知れる也

(空気は澄み、陽光は明るく万物を照らし、全てのものがはっきり見える時季なので芽吹いたこの草は何か、よく分かる)

清明 (清浄明潔) は、二十四節気のひとつで 4 月 5 日～ 19 日を指し、春の清らかで、いきいきとした様子を表しています。

地面の草から、そして木々の枝から緑の若芽が一斉に姿を見せ、新たな息吹きを感じさせる春です。今春、当院では時間をかけ養成してきた看護学生 7 人が一斉に芽吹き、看護師としての一步を踏み出しました。この若芽がこの後どのように育ち、そして患者様方にとってどんな花を咲かせてくれるかを楽しみにしております。

理事 久野久夫

